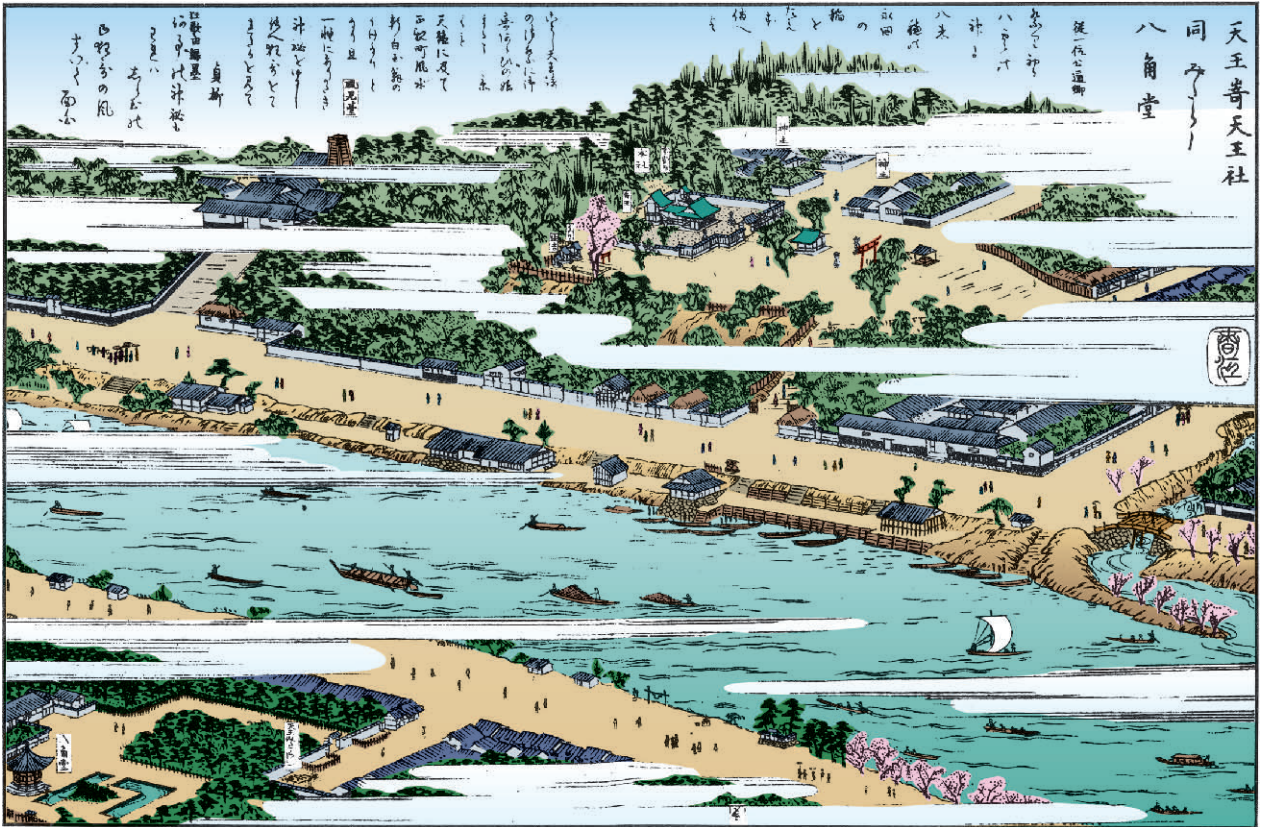


今昔

城下の人々の信仰を集め 堀川端に賑わいをもたらす



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に描かれた江戸時代の洲崎神社の風景です。開府以前の貞観年間(859 - 876年)に創建された洲崎神社は、広い境内に茂る椋びくや榎えのきの木々から椋の森とも呼ばれ、また広井ひろい天王社・天王崎神社などの名で、城下の人々の信仰を集めていました。その名の由来について尾張名所図会では次のように記しています。

「この地東北は甚高く西南はひきくして、むかしは入海の岬なりし故、洲崎すゐさき天王と称せしとぞ…」

堀川の川面を隔てた八角堂の辺りも含め、この一帯は尾張藩の水上交通の要所でした。毎年6月15日、この堀川を賑わせたのが、洲崎天王祭です。享年16(1731)年には、七代



現在は楠の生い茂る洲崎神社



堀川を新州崎橋から北へ望む

藩主宗春の命のもと船行列が始められ、夜には「御葎みよしのが流し」の神事が行われました。文化3(1806)年には、津島の祭りのように提灯を飾ったまきわら船が繰り出し、夏の夜祭りを見物する群集で、堀川の岸辺は盛況を極めたと伝えられます。しかし、宗春の隠居と共に船行列が廃止され、明治20年頃にはまきわら船も姿を消しました。

時代の流れとともに、洲崎神社の周辺も開発が進み、南に隣接する若宮大通に都市高速道路が走る現在では、神社もビル群に視界を阻まれ、堀川から望む事も叶わなくなりました。ただ緑の生い茂る境内は、今なお神秘的な趣をたたえ、かつての面影を残しています。

2010年10月1日から
ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋に
新しく生まれ変わります。

ご予約・お問い合わせ ☎ 052-683-4111 (代)

▲ 全日空ホテルズ ホテルグランコート名古屋

http: www.grandcourt.co.jp

JR・名鉄・地下鉄「金山」駅南口すぐ

総合スタッフサービス

- 人材派遣 ■アウトソーシング
- コンベンション事業
- 通訳 ■翻訳

http://www.congre.co.jp/

TEL 052-950-3369

株式会社 コングレ